



国連生物多様性の10年

(お知らせ)

生物多様性センター冬休み特別企画
「富士北麓の生きものたち」、「生きている化石」の実施について

平成 27 年 12 月 18 日 (金)
環境省自然環境局生物多様性センター
代表：0555-72-6031
直通：0555-72-6033
センター長：中山 隆治 (内線：111)
担 当：椎葉 美香 (内線：214)
横倉 啓 (内線：204)

生物多様性センターでは、冬休み特別企画として「富士北麓の生きものたち」、「生きている化石」の展示を新たに開始しました。富士北麓地域で観察することのできるニホンカモシカやハチクマ(タカの仲間)などの標本や、太古の昔から姿形を変えていない「生きた化石」とされる生物について、展示・解説しています。生きた化石の一つとされるタカアシガニなど、生物多様性センター初公開の標本も特別展示中です。この機会にぜひご来館ください。12月～3月の冬季期間中は平日のみの開館となります。(入館無料、開館時間：9：00～17：00)

詳細はこちら：<http://www.biodic.go.jp/event/2015/minikikaku2.pdf>



1. 概要

「富士北麓の生きものたち」の展示では、秋から冬にかけて富士北麓地域で見ることのできる哺乳類や鳥類、昆虫、植物についてわかりやすく展示・解説しています。ハチクマなどの渡りをする猛禽類の剥製や、ツキノワグマやニホンカモシカなどのさわれる剥製、実寸大の足跡と自分の手足を比べられるコーナーなど、見るだけでなく実際に触って学べる展示を行っています。

また、「生きている化石」の展示では、太古の昔から姿形を変えずに生きてきたとされる生物について、日本に生息する生きた化石の標本(ムカシトンボやアマミノクロウサギなど)を中心に展示を行っています。今回初公開のタカアシガニの標本など見どころ満載の展示内容となっており、ヤマネコシールやアニマルクリップなどの景品がもらえるクイズラリーも同時開催中です。展示に隠されたヒントを頼りに全問正解目指してチャレンジしてみてください。

冬休み特別企画展でしか見ることのできない貴重な標本が間近に見られるこの機会にぜひご来館ください。

地球のいのち、つないでいこう

2011-2020 国連生物多様性の10年



国連生物多様性の10年

2. 展示会場案内

(1) 会場 環境省自然環境局 生物多様性センター
山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1
<http://www.biodic.go.jp/>

(2) 開館時間 9:00～17:00

(3) 休館日 冬季期間（12月～4月の土日祝日）
年末年始（12月29日～1月3日）

※年内は12月28日（月）まで開館、年始は1月4日（月）から開館

(4) 入館料 無料

連絡先

環境省自然環境局生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

TEL：0555-72-6033 FAX：0555-72-6035 担当者：椎葉・横倉

* 関連 Web ページ <http://www.biodic.go.jp/center/tenji.html>

* 生物多様性センターでは、トキやイリオモテヤマネコなどの希少野生動植物種をはじめ、散逸のおそれのある重要な動植物標本を収集して標本収蔵庫に保存し、調査研究に役立てています。収蔵標本のうち、一部の標本については一般公開を行っており、貴重な標本を間近に見ることができます。

3. 展示風景



地球のいのち、つないでいこう



国連生物多様性の10年



スーパースキの謎
なぞときクイズラリー

01 日本の生物多様性を表現した絵(写真を除く)があります。その中にキツネは何匹いるでしょうか？

02 バランス感覚に働いているハクビシンは、木登りが得意といわれていますが、木登り以外に登るところはどこでしょうか？

03 全身が黄色になるホンダシを別名「キテン」といいますが、反褐色のデンを別名なんといいますか？

04 「ハチ」や「ハチダスキ」など呼ばれることがありますなぜでしょう？

05 イタチは肉食の割合が高い肉食性ですが、主にネズミや何を食べるのでしょうか？

06 アマガキが巣穴を掘るために発達している前足は他の哺乳類と比べて何が長いですか？

07 ウツバという種名は鳴き声が何の音に似ていることからついたのでしょうか？

08 サンバシは森や水田のあるどんな場所にすんでいますか？

09 秋の七草の一つであるスキキの、別の名前はなんというのでしょうか？

010 『生きている化石』の一つであるソテツが地球上に現れたとされるのは約何億年前でしょうか？

それぞれの番号のヒントを案内から探してクイズに挑戦しよう！



地球のいのち、つないでいこう

2011-2020 国連生物多様性の10年